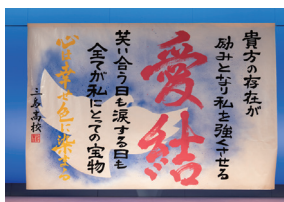


家族の絆と地域貢献を讃え 令和6年度あったか家族賞表彰

2月20日、協力して家事や育児をしている家族やボランティア活動などで地域に貢献している家族を表彰する「四国中央市あったか家族賞」の表彰式が、しこちゅーホールでありました。

表彰式では、市内20地区から選ばれた14家族がエピソードとともに紹介され、篠原市長から表彰状と記念品が贈られました。他にも、三島高校書道部が「日常の中の愛」をテーマにした作品を寄せ、「邦楽グループ楓雅」が和楽器を演奏するなど、受賞を祝う素敵な贈り物に、会場全体が温かい空気に包まれました。



霧の森交湯く館がリニューアル！ 新名所の名は「森の足湯茶ぼくん」

3月2日、道の駅「霧の森」(新宮町馬立)の温泉施設「霧の森交湯く館」が、約2年の歳月を経てリニューアルオープンしました。

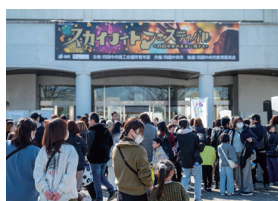
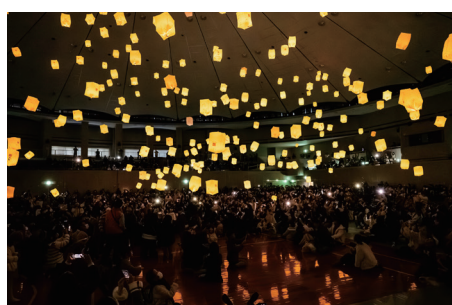
オープニングイベントでは、この日を待ち望んだ多くの市民が見守る中、再開を祝うテープカットやリニューアルの目玉である足湯の愛称が発表されました。地元の特产



品であり、足湯にも使われている新宮茶にちなみ「森の足湯茶ぼくん」と名付けられた霧の森の新名所は、新宮を全身で感じられると老若男女から好評でした。

またこの日は、本市出身のフアゴット奏者永易伶菜さんらの演奏を聞きながらお茶を楽しむ茶会も開かれ、来場者の五感を楽しませました。

四国中央市の未来に輝きを スカイナイトフェスティバル



2月23日、伊予三島運動公園に一日限りのテーマパーク「スカイナイトフェスティバル」がやってきました。

このイベントは、四国中央商工会議所青年部が市発足20周年を記念して企画。マルシェには、普段は見かけることのない商品が並び、市発足20周年記念ポスターのモデルを務めた野瀬山瑞希さん

が所属する「瀬戸内サーカスファクトリー」が、演劇やダンスを取り入れた現代サーカスで観客を魅了しました。

イベントのフィナーレを飾ったのは、約200個のLEDランタンが浮かぶ「スカイランタン」です。子どもたちが放ったランタンが作り出す幻想的な光景に、会場から感嘆の声が上がりました。



2月22日、地域防災力の更なる向上を目指し、「防災士ネットワーク」が設立されました。設立式には、市内で活躍する防災士44人が出席し、情報を共有する意義や今後の活動内容を話し合いました。また、東日本大震災の語り部 大谷慶一さんによる講演を通じて、防災リーダーとしての意識を高めました。

防災士ネットワーク設立



2月14日、四国電力株式会社（宮本喜弘取締役社長）から、太陽光発電式のLEDセンサーライト3基が寄贈されました。寄贈式で同社愛媛支店の渡邊三知博四国中央営業所長は、「避難所や夜間の活動などに役立ててください」と話し、篠原市長に寄贈品の目録を手渡ししました。

災害時にも明かりを灯したい 四国電力が防災資機材を寄贈



2月8日、市内の農業者や消費者が一堂に会し、地産地消の推進を考える「四国中央農山漁村ふるさとづくり大会」が金生公民館で開催されました。生活研究協議会による地域食材を使った料理が振る舞われたほか、事例発表では、北小学校的3年生たちが里芋の収穫体験を通して学んだことを発表しました。

地産地消で体も心も農業も元気！ ふるさとの食を考える大会を開催



写真右から、最優秀賞宇田樹花さん（川滝小・3年）、優秀賞安藤颯葵さん（南小・3年）

児童の防火意識向上を目的に、四国中央市危険物安全協会（大塚清秋会長）が実施している防火ポスターコンクールの表彰式が、2月12日に消防防災センターで行われ、応募のあった451作品の中から最優秀賞と優秀賞に選ばれた児童3人に、表彰状と記念品が贈られました。

「気づいてからではもうおそい」 防火ポスター優秀作品を表彰



2月20日、愛媛県浄化槽協会の加藤正之会長（写真中央右）らが市役所を訪れ、トイレ排水と生活排水の両方が処理できる合併処理浄化槽の設置促進などを求める要望書を篠原市長に提出しました。加藤会長は「浄化槽は環境に優しく、災害時には早期復旧が可能です」と話し、普及への協力を求めました。

川や海の豊かさを守るために 愛媛県浄化槽協会が要望書を提出



2月17日、自衛官を志願する人に情報提供などをする「自衛官募集相談員」の委嘱式が市役所で行われ、篠原市長と自衛隊愛媛地方協力本部の真部亮太郎部長（写真前列中央右）から委嘱状が交付されました。中学校区ごとに選ばれた8人の相談員は、今後、地域と自衛隊との架け橋として活動していきます。

地域と国防の架け橋 自衛官募集相談員に委嘱状を交付



今治精華高校女子バレー部が全国へ 本市出身の4人が活躍を誓う

2月28日、本市出身で今治精華高校女子バレーボール部に所属する4人の選手が市役所を訪れ、1か月後に控えた「全国私立高等学校男女バレーボール選手権大会」（東京都）に懸ける意気込みを篠原市長に伝えました。

4人は、「チーム一丸となってリーグ戦突破を目指します」と目標を掲げました。



38年ぶりの快挙！ 三島高校柔道部が全国大会に出場

1月の県大会で、38年ぶりの団体優勝などの輝かしい成績を収めた三島高校柔道部が、3月に日本武道館で開催された「全国高等学校柔道選手権大会」に出場しました。

同部の芝山哲平主将（2年・写真中央）らは、大会を前にした2月25日に篠原市長を表敬訪問し、憧れの舞台での躍進を誓いました。

2月22日、市発足20周年を記念したVリーグ公式戦「近畿クラブスフィードホームゲーム」が、アリーナ土居（土居町土居）で開催されました。奈良ドリマーズとの熱い戦いが2日間にわたって繰り広げられ、プロ選手の迫力あるプレーと手に汗握る展開に、観客席からは連日大きな歓声が上がりました。



プロの試合を間近で観戦 Vリーグ公式戦に1500人

また、試合後には近畿クラブスフィードの選手たちによる、子ども向けのバレーボール教室が開かれ、選手たちが実際にやっているウォーミングアップを体験した後、選手たちと一緒にボールを使って遊びました。バレーボールをプロの選手から教わる貴重な機会を子どもたちは笑顔で楽しみました。



3月8日から2日間、わたり、浜公園川之江野球場と伊予三島運動公園野球場で、鳴門高校や岡山南高校、神戸学院大学附属高校などの強豪校を招いた交流試合が行われました。市発足20周年記念のスポーツイベントを締めくくる交流試合では、川之江高校、三島高校、土居高校・西条農業高校連合が強豪校を相手に白熱した試合を繰り広げ、観客たちが声援を送りました。

強豪校がやってきた 高校野球にいま交流試合





写真 東京学芸大学 國仙久雄 教育インキュベーション推進機構長（右）と市教育委員会 東誠 教育長（左）。東京都小金井市の同大学にて



子どもたちの可能性を広げるために 本市と東京学芸大学が連携協定

2月21日、ICT教育の更なる充実を目指し、本市と東京学芸大学が相互連携に関する協定を締結しました。今後、同大学が持つVR（仮想現実）やAR（拡張現実）などの最新技術を小中学校で活用し、子どもたちの可能性を広げる学びを展開していきます。



エリエールスポーツクラブ 6選手が水泳の全国大会に出場

3月5日、エリエールスポーツクラブに所属する小中学生6人が市役所を訪れ、同月26日から東京都で開催される「全国JOCジュニアオリンピックカップ」に出場することを報告しました。大会に向けて、日々練習に励んでいると話す選手たち。その成果が遺憾なく発揮されることが期待されます。

令和7年度中の開通に向けて建設工事が進められている市道寒川中央線に設置された、「令和橋」の橋名板を地元寒川小学校の児童4人がデザインしました。卒業式を前にした3月13日、4人が見守る中、橋名板が令和橋の欄干に取り付けられました。写真右から、石川裕太さん（6年）、加地由芽さん（6年）、越智翔音さん（5年）、合田杏珠さん（5年）



ちょっとそこまで
広報 SAMPO



新しい道の
新しい橋の名前を
書いたよ！

市道寒川中央線「令和橋」の
橋名板を小学生在がデザイン

市長の ひとりごと

春爛漫、桜の花が咲き誇っている

新年が来て豆まきが終わり、桃の節句もあつという間に過ぎて行つて西の山にかぶつていた雪もほぼ消えていった。寒い日もあれば温かな日もあり、まさに三寒四温という言葉通りの気候である。

市政そのものは3月議会もほぼつつがなく終了しそうな雰囲気になり、あとは4月の市長選挙の結果次第という状況になってきた。それぞれの思惑もあつて、必ずしも思うようにはいっていないが、市民の皆さまにとってよく考えて投票しなければならぬという様相になってきた。でも結果論的にマイナスにはならない、そういう市長選挙になると私は思っている。

予想はなかなか難しいが、春の訪れとともに四国中央市の前途に期待を抱かせる市長選挙になればありがたいと思う。

私もおかげさまで全て満足というわけではないが、みんなの支えがあつて無事終了出来そうな雰囲気になってきた。

桜の花も両目を開けてぱっちり咲きつつある。

市民の皆さま方のお力で今後の四国中央市を占う市長選挙になれば大変ありがたい。是非、関係各位もそうした四国中央市の将来を思つて、そのように支えていただければ大変ありがたいと思つている。

春爛漫、桜の花が咲き誇っている。



四国中央市長 篠原 実